

目指す学校像	潤いと活気と感動のあふれる学校を目指して
--------	----------------------

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実践と個別最適な学びの推進 2 安心安全な学校づくりに向けた生徒指導・教育相談体制の強化 3 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携と地域の中の学校づくり 4 組織力・授業力向上に向けた教職員研修の推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査の教科別調査(国語・数学・英語)において、全国、市平均と比べ下回っている。 ○市の調査による「授業でのPC・タブレットなどのICT機器の活用状況」が市の平均よりも低い。 ○授業に真剣に取り組む生徒が多い。反面、授業内の発言等では消極的なところが見られる。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「関数」、英語の「書くこと」に課題がある。 ○学習の定着や取組に個人差が大きい。	・情報端末を活用した主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 ・個別最適な学びの実践	①情報端末を活用した主体的・対話的で深い学びに向けた、外部講師を招いての研修会を実施する。 ②教科会を通して情報端末を利用した授業実践に向けて研究を進め、研究授業を行う。 ③管理職が授業参観を参観し、指導助言を行う。	①外部講師を招聘し、年間2回以上の研修会を実施することができたか。 ②教科会を通して主体的・対話的で深い学びについて研究を進め、研究授業を行うことができたか。 ③学びの指標アンケートによる「主体的な学び」「探究的な学び」「ICTの活用」の項目が昨年度と比べて向上したか。						
2	<現状> ○学校評価アンケートにおいて「充実した学校生活を送っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒が93.6%と高い割合を占めている。 ○学校評価アンケートにおいて「先生方は悩みや相談にのってくれますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒が96.9%と高い割合を占めている。 <課題> ○生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に指導・支援・相談ができるよう、体制、仕組みづくりが課題である。	・生徒の主体的な活動を通じた積極的な生徒指導の実践 ・細やかな教育支援・教育相談に向けた行内体制の充実	①生徒が達成感や成就感が得られる、生徒主体の生徒会活動、学校行事(体育祭・校外学習・修学旅行・芸術祭)を実施する。 ②生活のきまり検討委員会を中心とした、当事者意識を持って取り組む生活のきまりの見直しを実施する。	①学校評価生徒アンケートの「充実した学校生活を送っていますか」について、肯定的な評価が前年度以上となったか。 ②主体的に自身の生活について関心を持つことができたか。「学校の規則」に関する肯定的評価が前年度(97.3%)以上となったか。						
3	<現状> ○学校運営協議会において生徒に身につけさせたい力について熟議を重ねた。「未来へ世界へ羽ばたく柏陽中生の育成を目指して」をテーマとして熟議を行っている。 ○登下校時にパトロールや見守りを自治会で提供していただいている。大変温かく、生徒のために尽力していただける地域である。 <課題> ○学校運営協議会で目指す生徒像や身につけさせたい力などを熟議し、その実現に向けて学校・家庭・地域の方々と活動を充実させる。 ○地域ボランティアやイベントに生徒が主体的に参加できるよう情報発信をし、郷土に愛着が持てるよう促す。	・目指す生徒の育成に向けた学校・家庭・地域が協働で行う取組の整理と実施 ・積極的な情報の収集と発信を通じた開かれた学校づくり	①学校運営協議会を年3回実施し、目指す生徒の育成に向けて熟議し、その実現に向けての取組を整理・実施する。 ②地域のボランティア活動や本校と関連する場所へ出向き、様々な取組を行うことで、郷土への愛着が持てるようにする。	①年間3回の学校運営協議会を開催し、目指す生徒の育成に向けた取組を行うことができたか。 ②地域に出向きボランティア活動等に参加することができたか(年間延べ8回以上)。						
4	<現状> ○タブレット等のICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を行っている。 ○教職員一人ひとりが自分に適した研修を進めている。 <課題> ○ICTの活用について、教職員間で取組の差がみられる。時代に即した効果的なICTの活用方法についての研修が必要である。 ○学校の課題に応じた組織力を高めるための研修の実施。	・ICT機器を活用した授業改善と学校の課題に応じた研修会の実施	①ICTを活用した授業改善に向けて、外部講師を招聘して校内研修会を実施する。 ②各教科においてICT活用について研究を深め、研究授業・研究協議を実施する。 ③生徒や学校の実態に応じた校内研修会を実施する。	①ICTを活用した授業の実践、研修を通して、生徒一人ひとりの学習進度や興味関心に応じた学びの場を創出できたか。 ②各教科において生徒のより良い学びに向けた研究授業・研究協議を行うことができたか。 ③生徒や学校の実態に応じた校内研修会を実施することができたか。						